

～突撃★ドメーヌ最新情報！！～

◆VCN°63 アレックス・フォワヤール

生産地方：ボジョレー

新着ワイン 3 種類♪

AC ボジョレー・ヴィラージュ 2019 (赤)

2019 年は歴史的な猛暑に見舞われた年だが、アレックス曰く、日照りに見舞われた 2018 年よりも降雨量が若干多く、最終的にブドウが熟した上に豊作に恵まれた当たり年とのこと。出来上がったワインは、前年の 2018 年と似て果実味が上品で艶やか！そこにジンジャーのようなスパイシーなアクセントが加わり、味わいにより立体感とメリハリが感じられるのが 2019 年の特徴だ！さらに特筆すべきは香り。イチゴなどの赤い果実の香りの後ろにバラやオレンジのような鼻をくすぐる官能的な香りがあり、香りを嗅いだだけでゾクゾクする！

AC ブルイイ 2018 (赤)

2018 年は、ブドウが早熟で日照量に恵まれた年だったが、収穫のタイミングを計るのが非常に難しい年だった。夏の日照りによりブドウの成熟スピードにブレーキが一時期かかったように見えたが、その後 9 月に入ってもどんどんと潜在アルコール度数が上がり続けたので、慌てて収穫に取り掛かったとのこと。今回は 70%セメントタンク、30%樽熟と、セメントタンクによる熟成でワインにフレッシュさを与える工夫を凝らしたが、今回は樽が余っていたこともあり、またワイン自体にボリュームがあるということで 2016 年同様 50%樽熟、50%セメントタンクの熟成と、熟成に耐えるワインスタイルに仕込みを切り替えた。ワインは前年よりも味わい複雑で、コクのあるまろやかな果実味の奥に鉱物的な滋味深いミネラルが溶け込み、そのまま余韻に続く！ちなみに、ワインを開けた翌日以降の方がよりまろやかさが出て個人的には好みだ。

AC コート・ド・ブルイイ 2018 (赤)

ブルイイ同様に 2018 年は、ブドウが早熟で、収穫のタイミングを計るのが難しい年だった。ワインは前年同様にボリューム豊かだが、アレックスのコート・ド・ブルイイらしい上品で艶やかな果実味は健在！ただ、前年よりも幾分スパイシーさが強調されたスタイルに仕上がっている！醸造面においては、よりワインの質感に温かみや柔らかさを出すために、今回からセメントタンクに代わり 70%28hL のフールドを熟成に使用。残りの 30%はブルイイと同じ理由で、樽に余裕があったので樽熟成させた。出来上がったワインは、全体的なベースはブルイイと良く似てボリューム感があるが、コート・ド・ブルイイの方が酸とジンジャーのようなスパイシーなミネラルがある分味わいがより複雑！コート・ド・ブルイイもブルイイ同様に、個人的にはワインを開けた翌日以降の方がよりまろやかさが出て好みだ。

ミレジム情報 当主アレックス・フォワヤールのコメント

2018 年は、夏が極度の日照りだったにもかかわらず、それなりの収量が確保できたミラクルな年。また、前年よりもさらにブドウが早熟の年だった。冬は雨が多く暖冬でブドウの芽吹きはかつてなく早かった。遅霜はなかったが、春は天候が安定せず雨の日が多く続いた。また、気温も湿気も高くブドウの成長は勢いを増すと同時にミルデューが心配された。だが、6 月に入ると雨はピタリと止み、乾燥した日々が 8 月の終わりまで続いた。夏の猛暑により畑の日照りが心配されたが、結局冬と春に降った雨のストックが地中にあったおかげで、水不足の影響なく健全なブドウを取り込むことができた。

2019 年は、歴史的な猛暑に見舞われた年。4 月初めと 5 月初めに寒波が下り、霜の被害にまで及ばなかったが、その影響でブドウの生育が大幅に遅れた。また、冬と春に雨がほとんど降らなかったため水不足が心配されたが、幸い 6 月中旬にまとまった雨が降ってくれたおかげで水不足は一時回避された。その後 6 月終わり、7 月終わりに

40℃を超える猛暑日が続き、遅れを取り戻すかのようにブドウの成長スピードにも拍車がかかった。8月に入ると猛暑は収まり、中旬には数日に分けて適度に雨が降ってくれたおかげで、最終的に十分な収量を確保したまま収穫を迎えることができた。ただ、4月5月の寒波の影響により、収穫したブドウの完熟度合いはばらばらだった。

「ヨシ」のつ・ぶ・や・き



写真① 2019年のワインの瓶詰中

今回収穫直前にアレックスを訪問♪ちょうど2019年ワインの瓶詰め中だった。(写真①) 普段であれば8月の今頃までゆっくり夏のバカンスを取り、9月に入る前に瓶詰めを行い、それから収穫の準備に取り掛かるのだが、今年は収穫日が8月26日と異例な早さでスタートしたため、作業が全て前倒しとなり、実質バカンスが全く取れなかったようだ。また瓶詰めと並行してアメリカ向けのワインの出荷準備を行っており、彼によると、現在のコロナ禍に加えトランプ関税により一番輸出が厳しそうに思っていたアメリカが意外にも好調で、すでに去年の輸出量を上回っているようだ。北欧や韓国なども好調で、逆に毎年好調だったデンマークがコロナ禍により下火になっているようだ。

写真に写るアレックスの横で瓶詰めを手伝う女性はファニー。彼の彼女だ。(写真②) アレックスよりも年上の姉さん彼女でマルセイユ出身。性格はとてもおっとりしてかわいらしく、とにかくフォワイヤール家に溶け込んでいる。アレックスの仕事を手伝っているだけでなく、ジャンやアニエスにまで信頼されているのが良く分かる！そして自分自身も彼女にとっても助けられている。というのは、アレックスもジャンも職人気質であるため、ワインのテクニカルシート的な質問を電話やメールでも、なかなか回答しきれないが、彼女はきちんと細かい回答をしてくれるので、いつも本当に助かっている！



写真② 優しいうえに、神対応のファニー



写真③ フォワイヤール家の次男 ルイ

瓶詰め作業をしてしばらくするとルイがカーヴに顔を出しに来た。(写真③) 彼はアレックスの4つ年下の弟だ。現在はジャンのドメーヌの仕事を手伝っている。以前はやんちゃな若者のイメージもあったが、すっかり物腰も柔らかくなり、ずいぶん大人になったという印象だ。父親であるジャンは、将来的に自らが引退した後は息子2人にドメーヌを継いでもらいたいと思っているが、アレックス自身は、弟の将来を考えてジャンのドメーヌはルイだけに任せたいと思っているようだ。世界的に圧倒的な知名度を誇るジャン・フォワイヤールのドメーヌ承継となれば、普通長男がその権利を主張してもおかしくないが、でも、さすがそこはアレックス。家族の調和を考え一歩引く姿勢はさすが。それと同時に、自らのワインだけで十分独り立ちできるという自信のほどが窺えて本当に頼もしい。

今回も長期熟成が期待できそうな素晴らしいワインを造り上げたアレックス。ますますこれからの成長が楽しみだ！ (2020.8.20.ドメーヌ突撃訪問より)

※弊社HP「フォト・ギャラリー」より、カラーでサイズの大きい鮮明な写真をぜひご覧くださいませ